

令和6年4月5日

令和6年度 大田区立大森第一中学校 学校経営方針

大田区立大森第一中学校  
校長 渡邊 映二

## 1 本校の教育目標

- きまりをよく守り、責任を果たす人になろう
- 自ら進んでよく学び、よく働く人になろう
- 心身ともに健康で、情操豊かな人になろう
- 互いに尊重し合い、思いやりのある人になろう

## 2 目標を達成させるための基本方針

- (1) 確かな学力の定着、体力向上、道徳性の涵養を図る
- (2) 生徒の個性を伸ばし、豊かな人間性と自立心を育む
- (3) 生徒に主体的に学ぶ意欲と課題解決能力や自己学習力を培う
- (4) 地域社会に根ざす学校づくりを推進する
- (5) 義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を推進する

## 3 目指す学校の姿

- 生徒・教職員が互いに人間性を磨き合い、魅力があり誇りがもてる学校。
  - (1) 生徒・保護者・地域から信頼され、よき伝統、よき校風のある学校  
「上級生が下級生の手本」「上級生と下級生の仲がいい」「挨拶がよくできる」
  - (2) 充実した授業のもと、基礎・基本の学力が身に付けられる学校
  - (3) 安全・安心で、豊かな心を育む、教育環境の整った学校
  - (4) 規律・社会貢献・自主自立を育む学校
  - (5) よき友人、よき教師、打ち込めるもの、感動する体験と出会える学校

## 4 目指す生徒の姿

- 未来を切り拓き、社会に貢献する意欲をもち、心身ともに健康で学ぶ意欲をもち続ける生徒
  - (1) 人間を尊重し、思いやりがあり、社会性豊かな生徒
  - (2) 明るく元気で、労働や奉仕の精神豊かな生徒
  - (3) 心身ともに健康で、学習や運動に主体的に励む生徒
  - (4) 伝統を重んじ、学校生活や行事に意欲的に取り組む生徒
- 一層自己肯定感を高め、自己実現、自己成長を目指す。

## 5 目指す教職員の姿

- 真摯に誠実で自己研鑽への努力を惜しまない教職員
  - (1) 変化を恐れず、常に自己研鑽・授業研究に取り組み、専門性を高め合う教職員
  - (2) 生徒・保護者・地域との信頼関係が構築できる教職員
  - (3) 意欲的に共通理解・共通認識ができ、協働できる教職員
  - (4) 3年間を見通し、「生徒の心に寄り添う」指導ができる教職員
  - (5) 健康で明るく、服務規律を遵守する教職員

## 6 教育目標を達成させるための具体策

○ 3年間を見通した系統的な指導を推進する。

(1) 学習指導：学ぶ喜びを実感し、自ら学びに向かう意欲を育てる。

ア Society5.0 に向けた社会を見据え、学習の個別最適化に向けた学習内容・指導方法の検討を行う。

イ プロセスを重視した学習を進め、わかる授業・意欲の湧く授業を展開する。

ウ 適正な評価規準の設定と説明責任・結果責任に耐えうる評価方法を検討・検証する。

エ 基礎的・基本的な内容の確実な定着に向けて、家庭学習の習慣化を図る。

オ 「特別の教科 道徳」における評価方法を工夫し、自尊感情や自己肯定感を高める。

(2) 生活指導：認め、励まし、共感し、心に寄り添った指導を推進する。

ア 生徒理解に基づく先手（予防）の支援を行うために、スクールカウンセラーへの相談や学校生活調査、学級集団調査等を効果的に活用した教育相談機能の充実を図る。

イ いじめの未然防止・早期発見・早期対応を組織的にを行い、定期的に情報共有する機会を設ける。

ウ 基本的な生活習慣を確立するために、全教育活動を通して健康教育を推進する。

エ 安全教育を徹底するために、避難訓練等の防災教育やセーフティ教室を通して、危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質を育てる。

(3) 進路指導：特別活動との関連を図り、自己理解を深め、自己実現に向けて支援する。

ア 生徒が主体的に進路選択できる環境づくりを計画し、系統的な取組を推進する。

イ 体験的な活動を重視するとともに、事前及び事後の取組で自己を見つめる機会の充実を図る。

(4) 特別活動：キャリア教育の要として、生き方教育を推進する。

ア 「上級生が下級生の手本となる」のキャッチフレーズのもとに、互いに高めあう意識をもつとともに、学級・学年への所属意識や自己有用感を高める。

イ ボランティア活動等の推進を行い、地域の一員として貢献する意識を高める。

ウ 部活動は、教員と生徒との信頼関係を構築する場と捉え、健全育成の基盤となる望ましいあり方を求め、取組の充実に努める。

(5) 教育環境の整備：気持ちよく、安全に生活し、安心して学習できる場を構築する。

ア ユニバーサルデザインによる教室環境の整備を行う。

イ スクールカウンセラー、特別支援教室専門員等と連携して、個別の指導計画や個別教育支援計画を作成し、特別な支援や配慮を要する生徒へのきめ細やかな指導を推進する。

ウ エコ活動への理解促進やリサイクル活動などを推進し、環境保護への意識を高める。

(6) 社会に開かれた学校の推進：地域に根ざした学校として、地域人材の活用と教育活動の見える化を図る。

ア 学校評価アンケート結果を活用して、地域、保護者、生徒の評価を生かした学校改善に取り組む。

イ 学校行事・授業参観の案内、地域行事への参加、各種たよりの発行やホームページによる広報活動を行い、地域への広報を充実する。学校支援地域本部やスクールソーシャルワーカーと連携を図り「地域ネットワーク」を構築する。

ウ 地域に根ざした教育活動として、全校道徳、カサゴの稚魚放流体験、池上自動車教習所での自転車安全教室・地域清掃活動等を実施する。

エ 学校図書司書の支援や協力なども得ながら、学年行事を中心に「学習新聞作り」を

行う。

(7)その他

- ア 小学校との連携を一層深め、小中一貫教育を推進する。
- イ 丁寧な言葉遣いや生徒の模範となる行動を意識するとともに、教育公務員として法令を遵守しサービス事故ゼロをめざす。
- ウ 学校徴収金等検討委員会を設置して私費の適正な執行を行う。また、保護者の状況を把握しながら、学校徴収金の完全徴収をめざす。